



令和2年10月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

イセエビの漁況予測と漁獲物測定



当場では毎年イセエビの漁期(9月16日～翌年5月14日)前に、下田・南伊豆地区の漁況予測を発表しています。前漁期は秋の台風と春のコロナ禍の影響による操業日数の減少が主要因となり、前々漁期の4割減となりました(左図)。しかし、今漁期に漁獲対象となる加入群は高水準と判断されたので、漁獲量は前漁期を上回ると予測しています(左図)。

また、解禁時の測定を白浜地区で実施しました。イセエビの測定は雌雄別に長さを測り、抱卵の有無を調べます(左写真)。白浜地区では雌の放卵エビが例年と比べて多く、最近の高水温の影響と考えられました。

解説：イセエビの雌雄の違い：雄は第2脚が長くなる。雌は第5脚の先がハサミ状になり、腹肢は卵を抱えられるように大きくなる。雌に比べて、雄は大きく成長するので、大型のエビは雄ばかりである。



↑イセエビの雄(左)と抱卵雌(右)

定置網からマグロ幼魚を逃す勉強会

静岡県定置漁業協会は、9月25日に同協会理事・役員を対象として、網内に迷入したクロマグロ幼魚を効率的に網外に逃がすタモ網作製のための勉強会を開催しました。本県の「たもすくい網漁業」で用いられている、軽くて水中抵抗が少ないタモ網をベースとした新しい網の作成を検討しており、講師として招聘された元たもすくい網漁師の濱野氏が網の特徴や構造について講演しました。

次回は定置網乗組員を対象としたタモ網作製実技講習の実施が予定されています。



解説：現在、クロマグロは国際的な資源管理が行われており、漁獲量が制限されている。定置網では網内に迷入した幼魚を網外に逃がすといった取組みを行っている。

キンメダイの人工ふ化試験

キンメダイの産卵期である7～9月に人工授精試験を行いました。漁船に乗り込んで採捕した親魚の卵と精子で人工授精を行いました。成熟したオスとメスがそろって採集されることは多くありませんでした。これまでに7回の採集で3万個程度の受精卵を得ることができ、そのうち2回でふ化を確認しました。ふ化直後のキンメダイの大きさは3mm程度で、鮮やかなオレンジ色の油球を持っています。今後、キンメダイ種苗の大量生産に向けて技術開発を進めていきます。



ふ化直後のキンメダイ

10月の予定 ●10/14に寿大学(下田市教育委員会主催の生涯学習講座)で講演を行います ●10/16にキンメダイ資源管理に関する漁業者代表者部会が開催されます ●西伊豆地域の水産物流通効率化試験を行います ●10/19に調査船駿河丸によりバラムツ等食害魚調査を行います

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。